



俳都松山
Haiku Capital Matsuyama

一番町大街道口に隠された**俳句**の「仕掛け」

ラフォーレ原宿・松山跡地ビルの再開発や、アーケードと路面の景観整備によってリニューアルされた一番町大街道口。

特に明治以降は、松山の中心地として栄え、小説『坂の上の雲』や、俳人・正岡子規の俳句にも登場します。また現在は、「俳句甲子園」の会場としても利用されるなど、俳都松山を象徴する場所でもあります。この場所には、松山らしさを感じられる、**俳句にちなんだ「さりげない仕掛け」**が隠されています。



俳句にちなんだ4つの「仕掛け」、皆さん探してみてください。

1. 石畳

◆ 石のサイズは5 : 7

舗装に使う自然石の縦横比は“5 : 7”で、俳句のリズムを取り入れました。

使用する自然石は、道後温泉本館前や道後温泉駅前にあるものと同じです。



2. 照明柱

◆ 「大街道」は子規の直筆

子規の直筆句集「寒山落木」の中にある俳句「掛乞の 大街道となりけり」から文字を引用しました。

この句にある「掛乞(かけごい)」とは、掛け売りの代金を取り立てる人のことを表す冬の季語で、この掛乞が多くなった歳末の大街道の賑わった風景を詠んだものと考えられます。

ロープウェー街入口のシンボル柱にある「松山城」の文字も子規の直筆です。



3. ベンチ

◆ 短冊型のベンチ

木製のベンチは、俳句の短冊をイメージしています。実際の縦横比も、短冊と同じ“6 : 1”になっています。

座面には、愛媛県産のヒノキを使用するなど、地元産品を積極的に取り入れています。

みなさんも、この短冊ベンチに座って、一句詠んでみてはいかがでしょうか。



4. シンボルツリー

◆ イロハモミジ

新たな街のシンボルとして、子規も俳句でよく使用した紅葉を植えました。

子規が生涯で詠んだ俳句は、約2万4千あると言われていますが、その中で、「紅葉」を詠んだ句は約300もあります。

ちなみに、植物を詠んだ句で一番多いのは「梅」で、約600句あるそうです。

秋の紅葉が楽しみです♪

